

# テニス・ミュージアム

URL: <http://www.jta-tennis.or.jp/museum/> Email: [museum@jta-tennis.or.jp](mailto:museum@jta-tennis.or.jp) Phone: 03-3481-2321 Fax: 03-3467-5192  
公益財団法人 日本テニス協会 テニスミュージアム委員会 〒150-8050 東京都渋谷区神南 1-1-1 岸記念体育会館



## 「心」

(公財) 日本テニス協会会長 畔柳信雄

この1年、スポーツの世界で改めて「心(精神力)」の重要性を感じさせられました。

テレビで映し出された大震災の現実。そこから立ち上がり、困難に立ち向かっている人々の勇気ある姿に、全国民が心を動かされ、スポーツに向う人達の心を揺り動かしたのだと思います。

私はテニスは勿論、スポーツ全体大好きな人間ですが、大震災以後、サッカーの「なでしこチーム」はじめ、明らかに、試合の最後の瞬間まで、人に頼らず、自分の持っている力を全て発揮しようとする「心」が強くなっていると感じます。昨年、私はたまたま会長という責任ある立場になり、いろいろなテニスの大会に接しさせてもらっていますが、ナショナル対抗の日本選手達の活躍、そして無論、錦織選手の大活躍、これは、これまでの盛田前会長はじめ関係

者の方々の貴重な努力のお蔭と思いますが、大震災以後の選手の人達の「心」の強さも関連している様に思います。そして間違いなく、その選手達のがんばりが多くの人達に感動を与え、明日に向う勇気を与えてくれていると思います。

そう考えれば、スポーツの原点は、人類が幾多の困難を乗り越えてきたその生き様、その「心」にあるといえると思います。心・技・体といいますが、技術を高め、体力を高めるにも、その努力を続ける「心」がまず必要です。

テニスミュージアムに居られる偉人の方々が、我々にどれだけの感動を与えて頂いたか、そしてまたその偉業を偲ぶ時、その蔭にどれだけの努力があったか、強い「心」があったか、それは尊敬の気持ちを超える「ロマン」ともいえるのではないのでしょうか。



## レジェンドを語りつなごう

(公財) 日本テニス協会副会長 渡邊 康二

オーストラリアンオープンには「ロッド・レーパー アリーナ」と「マーガレット・コート アリーナ」、ローラン・ギャロスには「コート フィリップ・シャトリエ」と「コート スザンヌ・ランラン」、USオープンには「ビリー・ジーン・キング ナショナルスタジアム」、「アーサー・アッシュ スタジアム」、「ルイ・アームストロング スタジアム」があり、ウィンブルドンではスタジアムには個人名は付けられていないがセンターコートの横には「フレッド・ペリーの銅像」が鎮座している。

我が国のナショナル・テニスセンターは？と言えば誰もが「有明テニスの森公園」と答えるだろう。しかしそこにはレジェンドの面影は何もない。

他のスポーツを見てみてもこの傾向は強い。あるのは商業主義の特徴であるネーミングライツによる呼称ばかり。それが強化資金に繋がっているとはいえ、およそ文化的な香りはせず、歴史・伝統を重んじる日本国民には一抹の寂しさのようなものを感じる。テニスでも日本の希有の名選手、熊谷一弥氏、清水善造氏などの名前のつ

いた施設名が現れないものだろうか。私がジュニアの頃には、熊谷・清水両選手の頭文字をとって「K・S杯ジュニア」という権威の高い大会が芦屋クラブで開催されていたし、それ以前では小学校の修身の教科書に清水善造さんの「柔らかなボール」が美談として紹介されていたようだ。誰もがテニスの先達をよく語り継ぎ、認識していた。しかしながら時代の移り変わりとともに最近とはみにその認識が薄れているようだ。「熊谷さん？清水さん？名前は聞いたことあるけど……。」となってしまう。

一週間で8万人が集まる楽天ジャパンオープンで「センターコート」ではなく「K・Sメモリアルコート」とでもすれば、その名称に関心が集まり、1921年の偉業に思いが馳せれば、テニス史にもっと輝きと興味が湧き、「テニスミュージアム」への期待が高まるかも知れない。さらに「テニスの殿堂」にまで発展すれば万々歳。少なくともあと10年後のJTA100周年には何としてもこの相乗効果を期待したいものだ。

## 感謝をこめて

テニスミュージアム委員会委員長 小田 晶子



東日本大震災から早くも1年が経過し、春の高校野球開会式での力強い選手宣誓は日本中の多くの人々に感動を与えました。「とどけよう、スポーツの力を東北へ！」の絆を大切に、一人でも多くの笑顔が増える事を祈念いたします。

平素は、「宮城黎子記念・JTA テニスミュージアム基金」にご理解とご支援を頂き、お陰様で中期5カ年計画の目標額2千万円を達成することができました。有難く厚く御礼を申し上げます。

活動内容につきましては本ニューズレター《テニスミュージアム第3号》にて報告させていただきます。どうぞご高覧ください。皆様へのお届けが例年より遅れましたことをお詫び申し上げます。

本年度活動の重要課題は、有明テニスの森公園内へのミュージアム設置を目指し、JTAから東京都トップへの直接交渉を実現することです。

ミュージアム設立事業達成の為に今後共、変らぬご支援を賜ります様、切にお願い申し上げます。

4月1日からは公益財団法人への移行に伴い、募金窓口および領収書発行手続きがJTAに一本化され、指定寄付が可能になりました。変更後の寄附金の手続きについては、同封のパンフレットをご参照ください。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご多幸を祈念いたします。

# 新たなる挑戦

プロテニスプレーヤー クルム伊達 公子



私が「新たなる挑戦」を開始したのが2008年4月、そして宮城黎子さんがお亡くなりになられたのが同年の6月でした。

37歳でコートに戻った私を心から喜んで下さったはずだと周りの方々からは言われていますが、この年齢でテニス続けることの意味を一度ゆっくりお話しする機会があれば良かったのに、と今は思います。

その年に全日本選手権で優勝した時は、41歳で優勝を果たしていた黎子さんのことを想って、パワーをいただきました。私の優勝は黎子さんに次ぐ戦後2人目の30代女性の優勝だったそうです。2010年のアジア大会でのメダルも黎子さんに次ぐ2位の高齢記録と、いつも私の前には黎子さんが存在しています。



14年振りにウィンブルドンのセンターコートに立つ筆者(2011年)

写真提供: K D PLANNING TOKYO

そのテニスにかける想いは、誰よりも熱く、深いものがあり、グラウンドスラムの大会では、朝早くから夜遅くまでその姿がコートサイドにあったことを今でも思い出します。

黎子さんが掛けて下さる言葉は、シンプルでしたが、優しさで、

何か心が引き締まる鋭いポイントを持っていて、私はそれによりいつも何かに気づかされていました。だから自分自身に迷いがあると「黎子さん!」と近づいていって、その言葉を求めているような気がします。

本当に大好きだった黎子さんは、私にとって大きな存在であり、先人であることを今改めて感じさせられます。

その黎子さんが、後年、尽力されていたのが、常時展示できるテニスミュージアムの実現だったそうです。確実に消滅していく膨大、且つ貴重な資料を正しく保管することが大切であることを示しながら、奔走されていたと後でお聞きしました。そうした想いを多くのテニス関係者が引き継いで、ひとつの形が造られていくことは、日本のテニス界にとってとても大切なことであり、重要なことであることは間違いありません。

現在また現役として取り組んでいる私も、微力ながらこの活動の意義を一人でも多くの方に示していけるお手伝いができれば幸いに思います。そして日本のテニス界が今後、益々発展していくことを心より願っています。

## デジタル・アーカイブ化に向けた基礎作業の必要性



明治大学政治経済学部准教授 後藤 光将

資料を整理、保存、共有するためには、現在ではそれらをデジタル化することが必須となっている。そして、それらをデータベース化することにより、有益なアーカイブとして保存、共有ができる。つまり、具体的な作業として1) デジタル化、2) データベース化の2つの基礎作業が求められる。

- 1) デジタル化について: デジタル化とはあらゆる情報を0と1 (two digits) の組み合わせで表現することである。最大の特徴は、オリジナルと同様のものが作れ、劣化しないことである。これは複製品を作るだけでなく、ある一定の情報の保存状況を維持しえることを意味する。多くの図書館では、古い書籍のデジタル化作業が進められ、それまで一般閲覧ができなかった資料も閲覧できるようになってきている。デジタル化作業の留意点としては、原資料の媒体によって適したデジタル保存形式を選択することである。また、新たに有用な保存形式が一般化された場合、その形式に変換する作業も必要である。
- 2) データベース化について: データベースは、「何らかの対象に対して、ある分類基準に基づき、あるいは、ある秩序を与えようという意図のもとで作られた、一覧表的なタイプの情報の配列」と定義される。デジタル化は情報の保存作業であり、データベース化は情報を共有するためのインデックスを作成する作業であるといえる。作成に際して、付与されたメタデータによる検索が重要

である。このデータの如何によって、利用者が目的のデータに辿り着けるかどうかが決まる。

ミュージアム創設には、情報を保存して、それを広く共有するためのアーカイブ作成に向けて、デジタル化、データベース化が今後の作業となる。ここで最も重要なのは、これらの作業自体は「人の手」によるものであるということである。デジタル化作業は、専門業者に外注するという手段も考えられ、公益性という面から、totoのスポーツ振興助成金などの公的助成を受けることも可能であろう。ただし、データベース化作業は、有識者によるメタデータの作成が必須であり、多数のテニス有識者を動員する必要がある。これらをクリアしていくことが、日本テニスミュージアムの早期実現につながると思われる。私個人としても全面的に協力していきたいと思っている。



### 公益財団法人への移行のご挨拶 —新しい寄附金制度のご案内—

この度の公益法人制度改革に伴いまして、公益財団法人への移行申請をしておりましたところ、公益認定等委員会の答申を経て、「公益財団法人」としての認定をいただきました。

今後は、公益目的事業に添う法人運営の重要性を再認識し、旧法人時にも増して気持ちを新たに、テニス競技の普及ならび

に振興に尽力してまいりたいと考えております。

旧来のご支援に厚く感謝申し上げますと共に、今後とも尚一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年4月吉日

公益財団法人日本テニス協会代表理事(会長) 畔柳 信雄

(詳細につきましては、JTAのホームページに掲載して居りますので、省略させていただきます)

**新しい寄附金制度:** 日本テニス協会は税法上の特定公益増進法人に認定され、当協会に寄附する個人、法人は税制上の優遇措置(所得税の所得控除・税額控除、住民税、相続税の控除、法人は法人税控除)を受けられる事になりました。寄附手続きにつきましては、同封のパンフレットをご参照の上、特定寄附金申込書「2. テニスミュージアムに関わる寄附金の募集」にご記入いただき、振込先の該当欄に○印を付けて何れかの金融機関にご送金ください。なお、新制度により寄附金額は1回につき5,000円以上からとさせていただきます。従来の「宮城黎子記念・JTAテニスミュージアム基金」は、新制度に移行して積み立てられます。新制度移行のためご面倒とご負担をおかけしますが、どうぞご理解ください。

振込先口座名: 公益財団法人日本テニス協会 寄附金
金融機関: ゆうちょ銀行 口座番号: 00130-0-504638
振込先口座名: 公益財団法人日本テニス協会 テニスミュージアム寄附金
金融機関: 三菱東京UFJ銀行 支店名: 渋谷中央支店 口座番号: (普通) 0272922

**速報!** 「日本のテニスをはじめ物語」  
webテニスミュージアムに更新しましたので、お楽しみください。



# ジャパンオープン歴史展示

(2011.10.3~9、於・有明コロシアム)

## テニスファッション物語



### テニスファッション物語

#### ～第1章 社交ゲームからスポーツへ～

**★ボールも入れられるテニス・エポック**  
1877年、イギリスのウィンブルドン大会で初めて「ラケット・ボール」が用いられるようになった。ボールも入れられるようになったのは、この大会からである。ボールも入れられるようになったのは、この大会からである。

**★オールホワイト、バウンス・スタイルの近代チャンピオン**  
1900年代前半のテニスファッションは、オールホワイトのバウンス・スタイルが主流であった。これは、当時の社交ゲームとしてのテニスのイメージを反映している。

**★プレーヤーはフランクが大好き**  
1900年代後半から1910年代前半にかけては、フランク・ゴットフリートのデザインが人気であった。これは、当時の社交ゲームとしてのテニスのイメージを反映している。

**★最初にウェアを変えた女生**  
1907年、ロンドンで開催されたウィンブルドン大会で、女子選手が初めてオールホワイト以外のウェアを着用した。これは、当時の社交ゲームとしてのテニスのイメージを反映している。

### テニスファッション物語

#### ～第2章 国際化で迎えたテニス黄金期～

**★テニスコートのバリエーション**  
1910年代後半から1920年代前半にかけては、テニスコートのバリエーションが増えた。これは、当時の社交ゲームとしてのテニスのイメージを反映している。

**★ウィンブルドンのウェアに学んだ日本の女性たち**  
1920年代後半から1930年代前半にかけては、日本の女性たちがウィンブルドンのウェアに学んだ。これは、当時の社交ゲームとしてのテニスのイメージを反映している。

**★第1回全日本女子選手権大会 出場者3人**  
1924年、東京で開催された第1回全日本女子選手権大会。出場者は3人であった。これは、当時の社交ゲームとしてのテニスのイメージを反映している。

**★流行した「ミス・ポーカー・ミス」**  
1930年代後半から1940年代前半にかけては、「ミス・ポーカー・ミス」が流行した。これは、当時の社交ゲームとしてのテニスのイメージを反映している。

**★流行した「ルディ・セーター」**  
1940年代後半から1950年代前半にかけては、「ルディ・セーター」が流行した。これは、当時の社交ゲームとしてのテニスのイメージを反映している。

### テニスファッション物語

#### ～第3章 オープン化、魅せる個性派たち～

**★テニスファッションの革命家 デッド・ティンリン**  
1950年代後半から1960年代前半にかけては、デッド・ティンリンがテニスファッションの革命家として活躍した。これは、当時の社交ゲームとしてのテニスのイメージを反映している。

**★アン・ホワイのボイ・スーツ**  
1960年代後半から1970年代前半にかけては、アン・ホワイのボイ・スーツが流行した。これは、当時の社交ゲームとしてのテニスのイメージを反映している。

**★アン・トレアガシも白で完全脱却**  
1970年代後半から1980年代前半にかけては、アン・トレアガシも白で完全脱却した。これは、当時の社交ゲームとしてのテニスのイメージを反映している。

**★ウィリアムズ姉妹の女性的なファッション**  
1980年代後半から1990年代前半にかけては、ウィリアムズ姉妹の女性的なファッションが流行した。これは、当時の社交ゲームとしてのテニスのイメージを反映している。

## 高校テニス100年の歩み

### 高校テニス100年の歩み

#### 1908年：明治41年～2010年：平成22年

1908年、東京で開催された第1回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

1910年、東京で開催された第2回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

1915年、東京で開催された第3回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

1920年、東京で開催された第4回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

1925年、東京で開催された第5回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

1930年、東京で開催された第6回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

1935年、東京で開催された第7回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

1940年、東京で開催された第8回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

1945年、東京で開催された第9回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

1950年、東京で開催された第10回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

1955年、東京で開催された第11回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

1960年、東京で開催された第12回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

1965年、東京で開催された第13回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

1970年、東京で開催された第14回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

1975年、東京で開催された第15回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

1980年、東京で開催された第16回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

1985年、東京で開催された第17回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

1990年、東京で開催された第18回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

1995年、東京で開催された第19回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

2000年、東京で開催された第20回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

2005年、東京で開催された第21回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

2010年、東京で開催された第22回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

## デ杯、フェド杯 ワールドグループ復帰

### デ杯、フェド杯 ワールドグループ復帰

2011年、東京で開催された第23回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

2012年、東京で開催された第24回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

2013年、東京で開催された第25回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

2014年、東京で開催された第26回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

2015年、東京で開催された第27回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

2016年、東京で開催された第28回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

2017年、東京で開催された第29回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

2018年、東京で開催された第30回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

2019年、東京で開催された第31回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

2020年、東京で開催された第32回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

2021年、東京で開催された第33回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

2022年、東京で開催された第34回全日本高校選手権大会。これは、高校テニスの歴史を刻んだ大会であった。

## ジャパンオープン 40周年記念展示

### ジャパンオープン 40周年記念展示

▼第1, 4回女子シングルス優勝カップ 沢松和子  
第1回男子シングルス優勝 坂井利郎  
'05年男子ダブルス優勝 鈴木・岩淵組優勝プレート

▼歴代優勝者パネル (JTA所蔵)

▲第49回インターハイ 皇太子御成婚記念杯 松本鐵一選手 (甲南高) 受賞

▲US Open'11 車いすテニス男子シングルス優勝カップ 国枝慎吾選手は4回目

### 展示風景

▶中央は恒例のラケットメーカー協力によるラケット展示

▶'10世界スーパージュニア優勝カップ  
'11ユニバーシアード金メダル他

### 展示風景

▶'10世界スーパージュニア優勝カップ  
'11ユニバーシアード金メダル他

▶US Open'11 車いすテニス男子シングルス優勝カップ 国枝慎吾選手は4回目

### 展示風景

▶US Open'11 車いすテニス男子シングルス優勝カップ 国枝慎吾選手は4回目

### 展示風景

▶中央は恒例のラケットメーカー協力によるラケット展示

▶'10世界スーパージュニア優勝カップ  
'11ユニバーシアード金メダル他

▶US Open'11 車いすテニス男子シングルス優勝カップ 国枝慎吾選手は4回目

### 「設立計画の歩みー2011年以降ー」

年	年月	事項
2011	平成23年 1月	第1回プロジェクト会議 (プロジェクト委員+委員会) ※初会合は2010年5月
	平成23年 4月	後藤光将氏がプロジェクト委員就任
	平成23年 6月	第2回プロジェクト会議 (浅沼常務理事よりJTAの取り組みなど概要説明)
	平成23年 8月	有明テニス・マネージメントチームとの打合せ (クラブハウス内常設展示の拡充など)
2012	平成24年 2月	東京都宛テニスミュージアム設立企画書の作成にかかる
	平成24年 4月	公益財団法人日本テニス協会寄付金窓口設置により、「宮城黎子記念・JTAテニスミュージアム基金」も指定寄付宛先として一括されることとなる 平成24年度重点事業として所蔵資料の整理・デジタル化・データベース化・有明クラブハウス常設展示の拡充 (書棚など)
2013	平成25年 4月	基金の中期5カ年計画最終年度
2014	平成26年 3月	基金の中期5カ年計画期間終了

## [ご賛同いただいた方々]

多くの個人、グループ、クラブ、企業、諸団体の方々にご賛同いただき、ご寄付を受けました。  
重ねて感謝申し上げます。

なお、個人情報保護のため、ウェブサイトでは  
[ご賛同いただいた方々] (ご芳名一覧) の公開は控えさせていただきました。  
どうぞご了承ください。

平成 23 年度

「宮城黎子記念・JTA テニスミュージアム基金」

会計報告

自：平成 23 年 4 月 1 日 至平成 24 年 3 月 31 日

平成 23 年度は 2,061,300 円の募金をお寄せいただきましたので、前年度からの繰越 604,102 円、受取利息 1,634 円を合わせ、収入合計は 2,667,036 円になりました。

一方、印刷費、事務費（送料・通信費、振替口座徴収料、振込手数料、免税領収書発行手数料、その他）として合計 234,425 円を支出しました。

その結果、2,432,611 円を基金へ積み立てることができ、累計は 19,518,773 円となりました。

以上、お礼とともに報告申し上げます。

テニス文化のオアシス

－ 「WEB テニスミュージアム」 サイトのご案内－

(<http://www.jta-tennis.or.jp/museum/>)

それぞれのご案内、資料紹介とともに  
「歴史物語」のページでは、豊富な画像を見ながら  
テーマ別に、日本テニス史をたどることができます。

「写真が語る日本テニス史」  
「日本テニス国際化の時代」  
「佐藤次郎の歩んだ道」  
「明治のテニス・ラケット物語」  
「日本のテニスはじめて物語」  
どうぞお楽しみください。

## 【掲示板】

- 中期 5 カ年計画の目標額には到達させていただきましたが、設立に向けた事業は山積しています。  
事業目標を順次達成するため、今後共、引き続きのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。
- 趣旨にご賛同いただけるご友人、企業、団体をご紹介ください。趣意書などのご案内を送らせていただきます。
- ◎ご寄附無申込書と振込先につきましては、第 2 ページ掲載の「新しい寄附金制度」をご参照ください。
- 古いラケット、文献など、テニス史資料の所在情報を求めていますので、委員会までご連絡をお待ちして居ります。

## ミュージアムグッズ販売による PR 活動

○絵はがき（4 枚セット、500 円）、小冊子「写真が語る日本テニス史」（2007 年発行、300 円）を制作し、  
大会会場などで販売しています。

また、JTA ホームページ「出版物」サイト（下記）からもお申し込みいただけます。

<http://www.jta-tennis.or.jp/JTA/information/publishing/index.html>



(公財) 日本テニス協会 テニスミュージアム委員会

委員長：小田晶子 委員：岡田邦子、小林公子、武内勝、福田達郎、小林やよい、西野篤、安藤健児  
プロジェクトチーム：宮城淳、我孫子和夫、市山哲、猪熊研二、川地孝、栗岡威、吉井栄、後藤光将

E メールアドレス：[museum@jta-tennis.or.jp](mailto:museum@jta-tennis.or.jp)